

I 「干しいも用かんしょ」の新品種などをテーマに 主要課題現地検討会を開催

3月11日（月）に、ひたちなか市の前渡公民館を会場として、第4回主要課題現地検討会を開催しました。生産農家、JA、干しいも業者及び関係機関職員など113名の参加があり、「干しいも用の新品種」、「『タマユタカ』の糖化促進法」、「干しいもの乾燥方法」など、試験の取り組み状況や生産現場での課題について検討しました。

◆検討内容

独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構 作物研究所の藏之内利和主任研究員から、干しいも用かんしょの新品種、「ほしこがね」、「ほしキラリ」などの特性について説明を頂きました。また、園芸研究所流通加工研究室の森田陽一室長から、干しいもの乾燥方法に関する試験研究の取り組み状況について説明して頂きました。農業研究所からは、年内加工に適した「ほしこがね」の特徴や、年内加工するための「タマユタカ」の糖化促進法について説明を行いました。

「ほしこがね」は、貯蔵中にデンプンの糖化が早く進むことから、年内出荷に向く品種です。また、「タマユタカ」で問題となるシロタの発生もほとんどないという特徴があります。一方、「タマユタカ」では、収穫後に10℃で約40日間貯蔵すると効率的に糖化が促進され、腐敗も少ないことが明らかになりました。この技術を用いることで、12月中旬に加工ができ、年内出荷が可能となります。

参加者からは、「適正施肥量やマルチ被覆による増収効果が知りたい。」、「シロタ軽減技術を開発してほしい。」、「多品種を栽培すると、加工した時に他の品種が混じって品質が低下する恐れがある。このため、対策を講じる必要がある。また、顧客向けに、品種特性の説明書を作成してほしい。」、「色のあざやかないもは、日数が経過すると黒ずんでくる。小売店に説明するため、何日ぐらいで変色するかを明らかにしてほしい。」などの活発な意見、質問が出され、地域の干しいもに対する期待の大きさを感じました。今後も、農業研究所では、皆様の声に応えられるよう各栽培技術の開発を進め、情報を提供して参ります。



「ほしこがね」の試食

Ⅱ 農業経営士との意見交換会を開催

2月18日（月）に、農業研究所において茨城県農業経営士会普通作部会の研修会が開催され、9名の農業経営士の皆さんと農業研究所研究員との意見交換会を行いました。

まず、所内圃場において、小麦「さとのそら」の播種期試験や施肥試験についての説明と生育状況の見学を行いました。続いて、室内に移動し、「さとのそら」の生育予測と安定栽培のための施肥方法など、今後の栽培管理や適期に栽培管理を行うための発育予測法について意見交換を行いました。

また、今年から本格的に栽培が始まる水稻新品種「ふくまる」（品種登録出願中）について、昨年までの試験結果から作成した栽培マニュアルを説明し、栽培上の留意点などを紹介しました。併せて「ふくまる」の試食も行いました。

出席者の皆さんからは、「外国産米との価格競争は、おそらく避けて通れそうもないと思う。その対策には、ハイブリッドライスのように超多収米の開発と、乾田直播栽培技術が、是が非でも必要ではないか。」「地力低下により米、麦、大豆の品質が低下している。そのため、土壌改良など地力対策が重要だと思う。土壌改良に伴う経営コストと品質向上効果について長期的な視点で研究を行ってほしい。」「転作田だけでなく、畑麦の追肥方法について教えてほしい。」「米の被害粒（黒点米、斑点米）が多いので、その対策をなんとかしてほしい。」「新技術の導入に伴う機械装備と農家経営試算を示してほしい。」などの意見を頂きました。



Ⅲ 「かんしょ」をテーマに消費者と意見交換

2月12日（火）に、「おいしい“いも”はここが違う！」をテーマとして、消費者との集いを開催しました。集いには、いばらきコープ佐藤洋一理事長はじめ消費者約50名の参加を頂きました。

生産者代表として、JAなめがた園芸流通課金田富夫課長より、「かんしょの生産と販売の取り組み」と題して、味と品質にこだわったおいしい“かんしょ”を生産し、消費者に届けることを実践していることや、3品種のリレー出荷を行い、いつでもおいしいいもを消費者に提供していることなどが紹介されました。いばらきコープ市原るり子理事からは、「食卓を彩る“サツマイモ”への期待」という題で、消費者の持つ“かんしょ”のイメージ、消費者がもっと利用するために、調理のしやすいいも、甘さ控えのいもなどの提案を頂きました。農業研究所からは、“かんし



よ”の品種や作付け状況、いもデンプン含量と食味の関係など試験研究の取り組みを説明し、研究で得られた成果を行方地域の生産と販売に活用して、消費者に美味しい“かんしょ”を提供できるようになったことなどを紹介しました。また、やきいも「べにまさり」やほしいも「ほしこがね」などの試食を行いました。

参加者の皆さんからは、「農家主体から消費者主体の品種選定を行うJAさんが出てきたことを嬉しく思う。」、「行方に視察にいきたい。」、「生産者の方、研究者の方の努力が伝わってきた。」、「美味しさを追究している姿勢に感動した。」、「紫いもを是非商品化してほしい。」などの意見を頂きました。

IV トピックス

1. 小麦「さとのそら」の出穂期予測

農業研究所では、小麦新品種「さとのそら」の出穂期予測方法を開発しました。今年の出穂期は表1のように予測されます（3月25日現在）。栽培管理や赤かび病防除などの参考にして下さい。

なお、出穂期は、今後の気象の推移により前後します。新しい情報は、農業研究所ホームページ上で随時更新しています。

表1 小麦「さとのそらの」出穂期予測（3月25日現在）

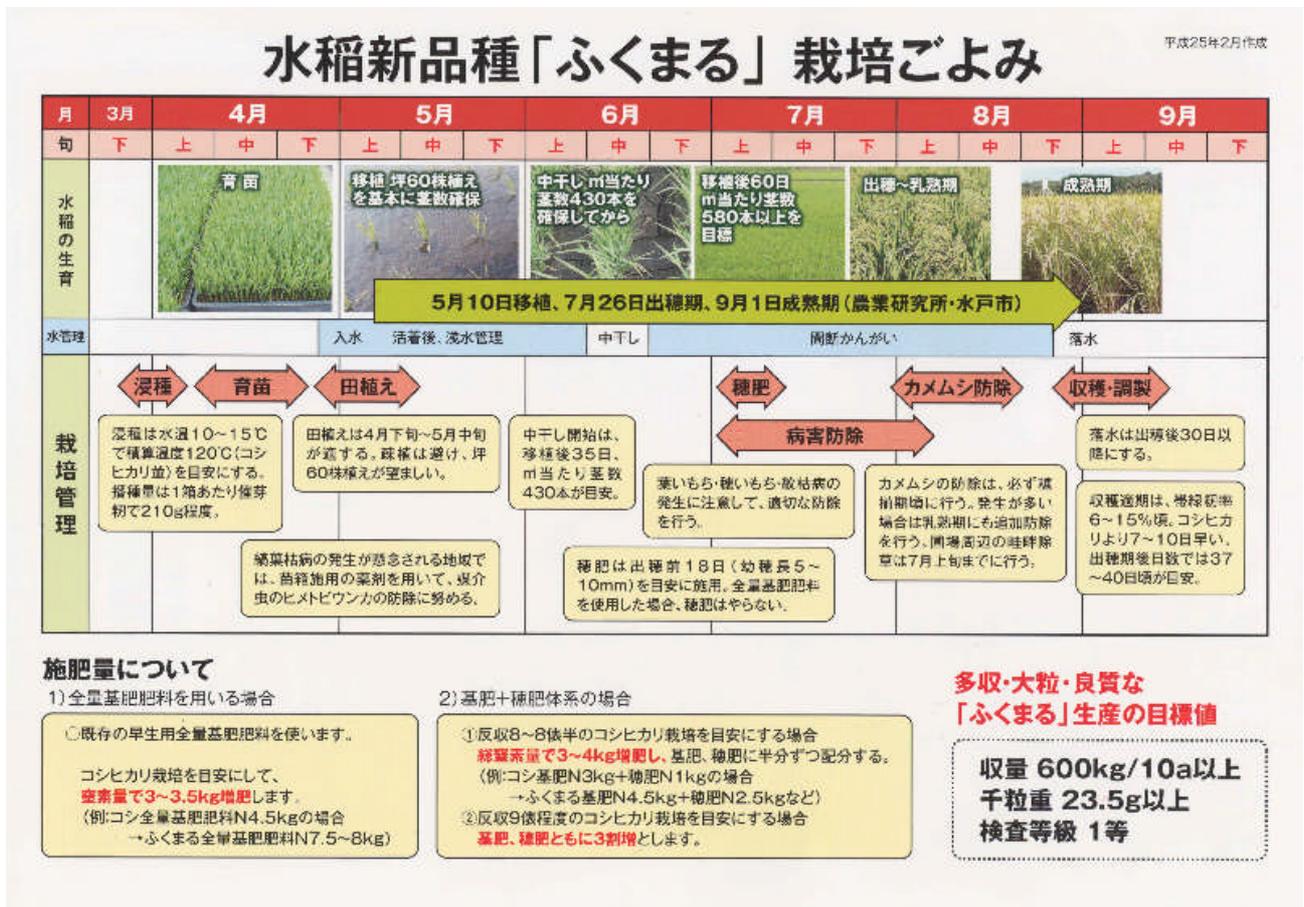
地点	播種期	出穂期の 予測時期	地点	播種期	出穂期の 予測時期
常陸大宮市	11月5日	4月29日	水戸市	11月5日	4月18日
	11月20日	5月1日		11月20日	4月25日
	12月5日	5月5日		12月5日	4月27日
鉾田市	11月5日	4月20日	土浦市	11月5日	4月12日
	11月20日	4月26日		11月20日	4月18日
	12月5日	4月28日		12月5日	4月22日
龍ヶ崎市	11月5日	4月14日	筑西市	11月5日	4月17日
	11月20日	4月20日		11月20日	4月22日
	12月5日	4月23日		12月5日	4月25日

2. 水稲「ふくまる」の栽培マニュアル

これまで得られた試験結果をもとに、水稲新品種「ふくまる」（品種登録出願中）の栽培マニュアルを作成しました。高品質多収栽培のポイントは、以下のとおりです。

- ①初期生育を旺盛にするとともに登熟期の肥効を保つために、総窒素量を「コシヒカリ」の3割または3~4kg/10a 増やします。
- ②初期の分けつを促進して茎数を確保するため、株間は18cm（60株/坪）程度とします。
- ③移植後35日を目安に、茎数が22~23本（約400~430本/m²）になったことを確認して中干しを行います。中干し終了後は、出穂後30日まで間断かんがいをを行います。
- ④早生品種のため、カメムシ類が集中的に飛来する恐れがあります。カメムシ類の防除は、穂揃期頃に行い、発生に応じて追加防除を行います。

栽培マニュアルは、JA等を通じて栽培される方に配付します。また、農業研究所ホームページでもご覧になれます。



編集・発行／茨城県農業総合センター農業研究所
〒311-4203 水戸市上国井町3402
TEL029-239-7211(代) FAX 029-239-7306
水田利用研究室
〒301-0816 龍ヶ崎市大徳町3974
TEL 0297-62-0206 FAX 0297-64-0667
Mail nouken@agri.pref.ibaraki.jp
URL <http://www.pref.ibaraki.jp/bukyoku/nourin/noken/>